

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1．講 師： 馬場 一美 先生 (昭和大学歯科補綴学講座 教授)

2．演 題：補綴歯科治療の新たな枠組み—アウトカム研究に  
よって解明されたこと・すべきこと

3．日 時：平成25年2月7日(木) 18:00～19:30

4．場 所：歯科棟南4階 特別講堂

5．内 容：補綴歯科臨床における最も基本的な臨床判断は、補綴治療を行う必要があるのか否かを診断し、必要な場合、最適な治療法を選択することである。欠損歯列であっても放置した場合の「結果」(アウトカム)がよければ医療費と時間を費やして補綴歯科治療を行う必要はないし、補綴介入方法の違いによって「結果」に差が予測されるのであれば、その情報を参照して臨床判断は行われるべきである。さらに、同一の介入方法であっても治療の質によって得られる「結果」が左右されることは想像に堅くない。

超高齢社会に突入し、補綴治療への需要が高まる状況において、高齢者の健康増進ばかりでなく、医療費の適正化という面から補綴歯科治療の「結果」を患者立脚型アウトカムを指標として評価する必要性が強調されるところとなった。また、デジタル技術を基盤としたCAD・CAMならびにインプラントの普及より、補綴歯科治療の枠組みも大きく変化し治療法も多様化してきた。そこで本講演では無治療も含めた治療法の選択に関する臨床判断を行う際に参照できる科学的根拠として、歯の欠損、補綴歯科治療の種類、補綴治療の質等と包括的患者立脚型アウトカムである口腔関連 QoL との関連性についての最新のエビデンスと今後の研究の展開について解説する。

【連絡先】 部分床義歯補綴学分野 上野 剛史 (内線 5517)